

抄 録

A 本邦最近雑誌抄録

皮膚科泌尿器科雑誌

42巻2號(昭和12年8月)

「バラウタムシ」高杉、「ボナベタム

シ」高崎の原因菌知見補遺 藤井清二郎

「バラウタムシ」高杉、或は「ボナベタムシ」高崎の一原因菌として *Sabouraeides ruber* を推論し、培養に於ては紅褐色色調の出現の菌學的所見に於ては紡錘狀器官及び楕圓狀器官の存在を追加して居る。(八木抄)

圓形脱毛症に就て 小川 直秀

第1報、特に其の臨牀的觀察

本邦に於ける各種皮膚疾患中、本症の罹患率は5.78%を占め、各種脱毛症中に於ても本症の罹患率はその最高位を占めるものである。脱毛に對する影響は單に内分泌變調のみならず、精神的、肉體的衝動、外傷及びその他の諸種の刺激も亦大なる誘因である。初發部位は額部後頭部に於て最も多く、本症の合併皮膚疾患として尋常性白斑も多く、その他白毛、尋麻疹、鞏皮症が多い。本症は再發することが屢々ある。(八木抄)

黴毒患者の扁桃腺に關する研究

第1報 臨牀的觀察 土肥淳一郎

145例の黴毒患者の扁桃腺組織の一部を切除し、67例に *Spirochaeta pallida* を證明し、即ち第1期黴毒11例中4例、黴毒性「アンギーナ」35例中30例、黴毒性「アンギーナ」を有せざる28例中16例、潜伏黴毒65例中17例であるが、第3期黴毒6例、神經黴毒3例、晚發性先天黴毒7例に於ては全部陰性である。(八木抄)

所謂顆粒膀胱炎の臨牀的知見遺補

外塚岩太郎

著者は本症の3例を経験し、膀胱鏡所見は、

留針頭大乃至粟粒大、又はそれ以上の半球狀の顆粒で、黄色或は蒼灰色なれども、時に紅色を呈し、膀胱三角部頸部及び底部に好發し、治療としては「デアテルミー」焼灼推賞をする。

(八木抄)

42巻3號(昭和12年9月)

濕疹様變化と脂質代謝

濕疹様變化の諸種臟器脂質含有量に及ぼす影響に就て(其1)實驗的皮膚炎に於ける肝臟脂質含有量

尾崎 徹

肝臟總脂酸量は皮膚炎急性期に於て、逐日減少し、亞急性期に及んで著しく増加する。皮膚炎後の磷脂質量にありては、亞急性期に於て輕度の増量を示すの外著變を認めない。(八木抄)

(其2)實驗的皮膚炎に於ける脾臟

「コレステリン」含有量 尾崎 徹

脾臟總「コレステリン」含有量は人工皮膚炎により、其の急性期に於ては減量、亞急性期に及べば却つて増量を示し、治療と共に再び正常値に復す。(八木抄)

(其3)實驗的皮膚炎に於ける副腎

「コレステリン」含有量 尾崎 徹

副腎「コレステリン」含有量は炎症急性期の當初に於て既に減少し、殊に炎症最高潮期にありて其の度最も顯著である。亞急性期に入ると共に増加し、炎症の治療につれて漸次正常値に復歸する。(八木抄)

(其4)實驗的皮膚炎に於ける肺臟、

甲狀腺並に睾丸「コレステリン」含有量 尾崎 徹

肺臟「コレステリン」含有量は炎症急性期の初頭に於て既に著しく増量し、急性末期より亞急性初期に亘りて一時正常値に近接するも亞急性

末期に入るや再び激増する。炎症の治癒と共に正常値に復帰する。

甲状腺に於ては炎症性初期頭に於て著しき増量を示し、次で一時減量に傾くも亜急性初期に及べば再び増量に向ひ、亜急性末期に至りて極度に増量し、治癒期に入ると共に逐次正常値に復す。

舉丸「コレステリン」含有量は炎症急性期に於ては不規則なる波状を描きて増加し、亜急性期に入ると共に直線的に増量し、治癒期に及んで悉く正常値に歸る。(八木抄)

尿路の Röntgenkymographie に

就て (IV)

木下 正文

「スギウロン」靜脈内注射による「レ」線「キモグラフィ」5秒間及び10秒間曝射像撮影に成功し、輸尿管内に於ける造影剤の形態及び、造影剤の細隙に對する位置、並びに Röntgenkymogramm を分析して得た輸尿管收縮傳導速度に就て報告して居る。(八木抄)

鼠癩 第2編 動物接種試験

佐藤 勝

自然感染鼠癩鼠32匹の内18匹の皮下淋巴腺、或は皮下結節乳劑を白鼠に接種し、何れも白鼠に鼠癩性結節症狀を惹起せしめ、之をして累代罹患せしめる事が出来た。(八木抄)

皮膚と泌尿

5卷5號 (昭和12年10月)

尿道結石症と尿道外溢流像に就て

山崎 勳

49歳男性に20餘年間經過した大なる前部尿道結石症例に於て尿道「レ」線撮影時に尿道外溢流像を觀察し其の概略から發生機能を考察し最後に尿道結石症に就て述べてある。

諸種皮膚疾患に於ける血清「アミノ」酸

窒素

吉岡 浩正

健康人及び諸種皮膚疾患患者の血清「アミノ」酸を測定するに皮膚疾患に際して増量乃至減量が見られる。而して少くとも急性濕疹時には血清「アミノ」酸の減量は炎症の強度、發疹の新舊乃至罹患部位の廣狹に支配され、廣汎部位に亘

る急性炎症の場合は血清「アミノ」酸の減量を來す。

諸種皮膚疾患患者の尿中 Vitamin C

排泄量に就て

荒木 龍爾

健康成人20例、濕疹42例、中毒疹9例、寄生性皮膚疾患14例、化膿性皮膚疾患9例其他計105例の諸種皮膚疾患患者に就き Redoxon, Roche 100 mg の皮下注射を行ひ注射前、後1時間、後3時間、後24時間の尿の 2,6 Dichlor-chenol-Indophenol 還元値に就て報告してある。

濕疹患者の胃液に就て

菅井 正憲

松本 龜雄

濕疹患者20例に就て其の胃液検査を行ふに急性濕疹患者には分泌異常少数なるに反し慢性濕疹患者に於ては全症例に分泌異常を認めたと過酸症、減酸症の頻度に關しては大差を認めない。

人體消化管内の醱母菌に就て

堅山 啓

45例の屍體の消化管各部の内容及び切片から培養して 71.11% に醱母菌を検出し其の菌學的研索並に消化管内容の反應との關係に就て述べてある。

既往25年間我教室小兒「ストロフルス」

の統計的觀察

西脇 亨

明治45年1月1日より昭和11年12月31日に至る25年間に於る本症患者總數1230名に就て他の皮膚疾患との頻度、初發季節、初發年齢、患兒の榮養状態並に食餌との關係、卵白皮膚反應、麻疹、種痘其他の熱性疾患との關係、胃腸障礙、腸内寄生蟲、皮膚指記、遺傳的關係の有無、等について統計的觀察を行つた。

海苔多食に因する柑色皮症に就て

松田 心一

乾海苔の嗜食によつて惹起された柑色皮症患者の血清及其乾海苔中より明かに Carotinoid 色素を證明した一例を報告してある。

重複腎盂、輸尿管を有する右側遊走

腎の一治験例

古畑 文男

著者は34歳男子の重複腎盂、輸尿管を有し且つ高度の右側遊走腎に、腎固有膜を利用する固